

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがお住吉区店		
○保護者評価実施期間	2025年1月4日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年1月4日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者・関係機関と密に情報共有を行い連携を取っていること	利用者や保護者の様子に気を配り、少しでも違和感やトラブルがあった際はすぐに連絡を取り、また相談支援なども積極的に行っている。関係機関とも必要に応じてやり取りを行っている。	こちらからの吸い上げがなくても保護者から困りごとを積極的に発信できるような聞き取りのシステムを作成したい。
2	児童が過ごしやすいよう、絵カードやスケジュール表を用いて視覚支援の環境を整えていること	おもちゃの絵カードや気持ちカード、約束カード、活動準備表タイムタイマーなどの視覚支援の他、各利用者の支援内容に合わせて、チェック表やスケジュール表などを作成している。	利用者の年齢層や特性の変化に合わせて、内容を適宜検討している。
3	支援計画やプログラムに沿って支援を実施していること	支援についての情報共有を朝礼やカンファレンスで日々行い、職員間で方針や情報にずれがないように取り組んでいる。	・各職員からより積極的に意見が出やすくなるようにカンファレンスの流れやツールの見直しを検討している。 ・非常勤の職員にも漏れなく情報が共有できるよう、ビジネスチャットツールの使用を始めている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	最低限の人員配置はあるものの、人員にもっと余裕があれば余裕のある支援ができると思われる。	処遇面や求人の内容などに問題があると思われる。	給与面等の処遇の改善と共に、職場環境などを整えていく必要がある。
2	事業所が少し狭く、二階に上がるエレベーターが使用できないなどハード面の弱さがある。	賃貸物件で制約があるため。	課題そのものの解決が難しいため、利用者の割り振りなど近隣の店舗との連携を行っている他、事業所内でパーテーションでの仕切りや、1階と2階で児童の特性毎に支援場所を分けるなど利用者が過ごしやすいように工夫を行っている。
3	保護者会や地域の児童との交流などが実施できていない。	滞在時間の制限や土日が休業日であることから、イベント時など限定的にしか地域との交流の場を持っていない。	保護者参加型のイベントについては検討中。地域とのかかわりについては、祝日や長期休暇などを利用して交流の場を持っていか検討していく。